政党支持態度と政治的諸態度

——神戸市における政治意識調査から——

真　鍋　一　史

はじめに

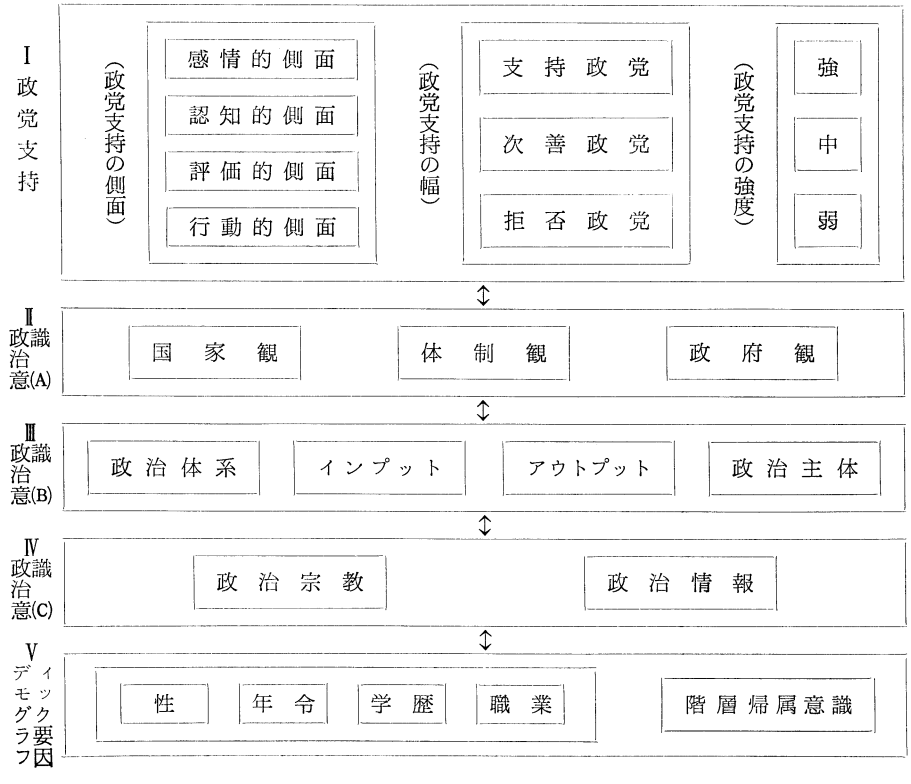
投票行動や政治意識に関するこれまでの研究においては，政党支持態度に中心的な位置があたえられている。ところが，この政党支持態度がどのような主体的諸要因によって規定されるのか，どのような政治意識の諸成分を規定するのか，そのプロセスやメカニズムはどのようになっているのかなどについては，いまだ十分に明らかにされているとはいえない。ここでは，神戸市における政治意識調査の結果をとおしてこれらの問題に接近したい。ただ，この調査は，つぎの理論図式（第1図）にみられるように，その調査項目が広範囲にわたっているので，今回は，「政党支持態度」と「自民党観」「内閣観」「体制観」との関係ということに焦点をしぼって分析をすすめていくことにする。

Ⅰ．調　査　方　法

(1)　調査対象と標本抽出

この調査の対象地域は神戸市全区であり，調査対象者は神戸市に居住する全有権者——昭和48年8月現在，神戸市選挙管理委員会に登録されていた918,070人（男445,024人，女473,046人）——

第1図　神戸市における政治意識調査の理論図式



とした。このような母集団に対して，標本抽出の方法としては系統的二段無作為抽出法を採用し，まず，第1段階で昭和45年国勢調査の結果から神戸市9区内の世帯数にもとづき700の町別調査地点を選び，つぎに，第2段階で昭和48年8月現在の各区選挙人名簿によって各地点ごとに10人，700地点で7,000人を無作為に抽出した。

(2) 調査と集計の方法

調査は，被調査者個人を対象としてその住所に調査票（質問紙）を郵便で送り，記入した調査票を無記名で返送してもらう「郵便調査法」によって実施した。調査票は昭和48年8月9日から17日までにわたって投函したが，これとは別に，回答の催促状を8月21日に4,300通，8月23日に2,700通と2回にわけて郵送した。このようにして郵送した調査票は，9月3日までに返送されてきたものを有効としたが，回収調査票数は2,031通で，有効回収率（2,031/7,000）は29.0％となった。ただし，投函した7,000通のうち「移転」「尋ね当らず」などで被調査者に到着不能のまま返却されてきたものが703通あるので，実質的な有効回収率（2,031/6,297）は32.3％になっている。

さて，このようにして回収した調査票の回答をコーディング・シートに転記し，関西学院大学計算センターの FACOM 270/20 でフェース・シートの項目および各質問ごとの単純集計，フェース・シートの項目と各質問とのクロス集計，各質問相互間のクロス集計，各項目相互間のトリプル・クロス集計などをおこなった。

Ⅱ. 調　査　結　果

1　政党支持の方向

(1) 政党支持の方向

政党支持の方向については，第1表のような結果をえた。政党別の支持率は，「自民党」の33.8％，「社会党」の22.7％，「支持政党なし」の14.1％，「共産党」の12.7％，「民社党」の6.2％，「公明党」の5.4％，「わからない」の4.8％，「その他の政党」の0.3％という順位になっている（無回答を除いた）。自民党の支持率は33.8％で最も高いが，野党4党の支持率を合計するならば47.0％となり，自民党の支持率を13.2％も上回ることになる。また，「支持政党なし」が「自民党」「社会党」につづいて第3位であり，「わからない」のおよそ3倍にもなっていることは注目される。

第1表　政党支持の方向（支持政党）

自民党	674	33.8
社会党	452	22.7
共産党	253	12.7
公明党	107	5.4
民社党	123	6.2
その他	7	0.3
なし	282	14.1
わからない	95	4.8
計	1,993	100.0

(2) 政党支持の方向とデモグラフィック要因

① 性　別

支持政党と性との関係は第2表のとおりである。自民党と共産党については，男性の支持がいくぶん多く，公明党と民社党については男性の支持がかなり多い。ところが社会党については，女性の割合がわずかに高く，「支持なし」では女性の割合がいくぶん高く，とくに「わからない」では女性のほうが2．6倍も多い。

第2表　支持政党と性別

支持政党＼性別	男	女	計
自民党	377 57.3	281 42.7	658 100.0
社会党	218 49.4	223 50.6	441 100.0
共産党	139 55.4	112 44.6	251 100.0
公明党	63 60.0	42 40.0	105 100.0
民社党	72 60.0	48 40.0	120 100.0
その他	4 57.1	3 42.9	7 100.0
なし	126 45.3	152 54.7	278 100.0
わからない	26 27.7	68 72.3	94 100.0
計	1,025 52.5	929 47.5	1,954 100.0

この結果から，男性であること，あるいは女性であることと，保守支持あるいは革新支持ということにとくに強い相関はみられないといえよう。ただ，「わからない」とする回答が女性のほうで多いことなどから，いまだ，政治的無関心は女性

第3表　支持政党と年令

支持政党＼年令	19才以下	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50～54才	55～59才	60～64才	65～69才	70才以上	計
自民党	3 0.4	28 4.2	42 6.2	47 7.0	70 10.4	84 12.5	89 13.2	76 11.3	66 9.8	50 7.4	55 8.2	62 9.2	672 100.0
社会党	1 0.2	32 7.1	36 8.0	54 12.0	64 14.2	69 15.3	68 15.1	39 8.7	26 5.8	23 5.1	24 5.3	14 3.1	450 100.0
共産党	4 1.6	33 13.1	39 15.5	39 15.5	37 14.7	21 8.3	23 9.1	20 7.9	8 3.2	11 4.4	11 4.4	6 2.4	252 100.0
公明党	2 1.9	9 8.6	13 12.4	15 14.3	17 16.2	13 12.4	15 14.3	3 2.9	8 7.6	6 5.7	4 3.8	0 0.0	105 100.0
民社党	0 0.0	1 0.8	9 7.3	14 11.4	13 10.6	18 14.6	21 17.1	15 12.2	9 7.3	8 6.5	8 6.5	7 5.7	123 100.0
その他	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	2 28.6	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 100.0
なし	3 1.1	49 17.4	44 15.7	33 11.7	32 11.4	26 9.3	18 6.4	32 11.4	19 6.8	12 4.3	7 2.5	6 2.1	281 100.0
わからない	2 2.1	5 5.3	8 8.4	11 11.6	9 9.5	15 15.8	11 11.6	9 9.5	3 3.2	7 7.4	8 8.4	7 7.4	95 100.0
計	15 0.8	159 8.0	191 9.6	213 10.7	244 12.3	249 12.5	245 12.3	194 9.8	139 7.0	117 5.9	117 5.9	102 5.1	1,985 100.0

ほうで高いという推測はなりたつと思われる。

② 年令別

支持政党と年令との関係については，第3表のようになった。この結果からするならば，自民党は40代，50代，60代以上，社会党は30代，40代，共産党は20代，30代，公明党は20代，30代，40代，民社党は30代，40代，50代で，それぞれ支持者の割合が高いことがしられる。また，「わからない」とする回答者の割合が年令の高いところで高いのに対して，「支持政党なし」とする回答者の割合が年令の低いところで高くなっているのは注目される。

若年層は革新支持で高年層は保守支持であるという傾向は，つとに，指摘されているところであるが，たしかに，われわれの調査結果においても，自民党と共産党をくらべてみるならば，前者は40代以上において，また後者は30代まででそれぞれ支持者が多くなっているというふうに，30才代と40才代に断層がみられるのである。

③ 学歴別

支持政党と学歴の関係につていは，第4表に示している。この表から，自民党では小中卒，社会党では小中卒と高卒，共産党では高卒，公明党では小中卒の割合がそれぞれ比較的高く，公明党では大卒，共産党では小中卒の割合が比較的低いことがしられる。また，「支持政党なし」が大卒で

第4表　支持政党と学歴

支持政党＼学歴	小学校，旧制高等小学校，新制中学校	旧制中学校，新制高等学校	専門学校 短期大学 大学 大学院	計
自民党	236 35.5	259 38.9	170 25.6	665 100.0
社会党	146 33.0	201 45.4	96 21.7	443 100.0
共産党	64 25.3	123 48.6	66 26.1	253 100.0
公明党	40 38.1	48 45.7	17 16.2	105 100.0
民社党	37 30.8	52 43.3	31 25.8	120 100.0
その他	1 14.3	4 57.1	2 28.6	7 100.0
なし	59 21.1	122 43.7	98 35.1	279 100.0
わからない	41 43.6	41 43.6	12 12.8	94 100.0
計	624 31.7	850 43.2	492 25.0	1,966 100.0

多く小中卒で少ないのに対して，「わからない」が小中卒で多く大卒で少ないのは注目される。

これまで，高学歴が低学歴よりも革新支持にかたむく傾向があるといわれているが，これらの結果に関するかぎりにおいては，そのような傾向はみられないということを指摘しておかなければならない。

④ 職業別

支持政党と職業との関係については，第5表の

第5表 支持政党と職業

支持政党＼職業	農林漁業	専門職	管理職	事務・販売・サービス職	技能・生産工程・労務職	商工サービス自営	家族従業者	主婦	学生	無職	その他	計
自民党	11 1.7	35 5.3	105 15.8	100 15.1	64 9.6	89 13.4	18 2.7	157 23.6	9 1.4	69 10.4	7 1.1	664 100.0
社会党	3 0.7	23 5.1	46 10.2	77 17.1	92 20.5	7 1.6	11 2.4	141 31.4	13 2.9	33 7.3	3 0.7	449 100.0
共産党	0 0.0	26 10.4	9 3.6	60 23.9	58 23.1	20 8.0	3 1.2	55 21.9	9 3.9	11 4.4	0 0.0	251 100.0
公明党	0 0.0	5 4.8	8 7.7	14 13.5	27 26.0	8 7.7	1 1.0	33 31.7	2 1.9	6 5.8	0 0.0	104 100.0
民社党	0 0.0	7 5.8	27 22.3	10 8.3	23 19.0	10 8.3	3 2.5	33 27.3	0 0.0	6 5.0	2 1.7	121 100.0
その他	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	7 100.0
なし	0 0.0	13 4.7	18 6.5	65 23.5	38 13.7	16 5.8	4 1.4	89 32.1	12 4.3	18 6.5	4 1.4	277 100.0
わからない	4 4.4	4 4.4	1 1.1	12 13.2	12 13.2	5 5.5	4 4.4	30 33.0	2 2.2	16 17.6	1 1.1	91 100.0
計	18 0.9	114 5.8	215 10.9	338 17.2	316 16.1	155 7.9	45 2.3	539 27.4	48 2.4	159 8.1	17 0.9	1,964 100.0

とおりである。自民党では，管理職と商工サービス自営，社会党では労務職と主婦，共産党では事務職と労務職と専門職，公明党では労務職と主婦，民社党では管理職と労務職の支持者の割合が高い。また，「支持政党なし」は事務職と主婦と学生に多いのに対して，「わからない」は農林漁業と主婦と無職に多いといえる。これまで，職業は，政党支持の方向を規定する最も重要な要因とされてきたが，たしかに，われわれの調査結果からもかなり明確な傾向がよみとれるのである。

⑤　階層帰属意識別

支持政党と階層帰属意識との関係については，第6表のような結果をえた。これによるならば，自民党では「上」と「中の上」，社会党では「中の中」と「中の下」，共産党では「中の下」，公明党では「中の下」と「下」，民社党では「中の中」の階層意識をもつ支持者の割合が比較的高く，また，「支持政党なし」が「中の上」で多いのに対して，「わからない」は「中の中」で多いといえる。

これまで，「政党支持の方向」と「階級帰属意識」（労働者階級，中間階級，資本家階級）とのあいだには，強い関係がみられるのに対して，「階層帰属意識」（上，中，下，）とのあいだにはほとんど関係がみられないといわれているが，われわれの調査結果からみるかぎりにおいては，階層帰属意識とのあいだにもかなり明確な関係がみいだされたといえよう。

第6表　支持政党と階層

支持政党＼階層	上	中の上	中の中	中の下	下	計
自民党	25 3.7	166 24.7	377 56.2	86 12.8	17 2.5	671 100.0
社会党	3 0.7	64 14.2	266 59.1	97 21.6	20 4.4	450 100.0
共産党	2 0.8	27 10.7	137 54.4	77 30.6	9 3.6	252 100.0
公明党	1 0.9	14 13.1	58 54.2	24 22.4	10 9.3	107 100.0
民社党	2 1.7	20 16.5	84 69.4	15 12.4	0 0.0	121 100.0
その他	0 0.0	1 14.3	6 85.7	0 0.0	0 0.0	7 100.0
なし	4 1.4	59 21.2	154 55.4	52 18.7	9 3.2	278 100.0
わからない	0 0.0	16 17.0	59 62.8	17 18.1	2 2.1	94 100.0
計	37 1.9	367 18.5	1,141 57.6	368 18.6	67 3.4	1,980 100.0

(3)　政党支持を測定する方法としては，これまで，「あなたは，今，選挙があるとしたら，何党の候補者に投票しますか」という行動的側面を問う方法，「あなたは何党がいちばんすぐれていると思いますか」という認知的側面を問う方法，「あなたがいちばん好きなのは何党ですか」という感情的側面を問う方法などが用いられてきたが，それらに対する回答は，「あなたはふだん何党を

支持していますか」という問いに対する回答とだいたい同じ結果になること（相関が非常に高いこと）が指摘されてきた。ところが，このような問題は，政党支持の概念と構造にかかわるきわめて重要な問題であるにもかかわらず，かならずしも詳細な検討がなされているとはいえない。そこで，われわれの調査では，「好きな政党（感情的側面）」と「実績・政策・実行力のすぐれた政党（認知的側面）」と「政権を担当するべき政党（評価的側面）」と「投票する政党（行動的側面）」と「支持する政党」との関係を探ってみようとした。ここでは，これらの関係を示している第7表を以下の分析の参考のために掲げておこう。

第7表　政党支持の諸側面

	好きな政党	実績・政策・実行力のすぐれた政党	政権を担当するべき政党	投票する政党	支持する政党
自民党	656 32.6	823 41.1	712 35.8	670 33.4	674 33.8
社会党	421 21.0	120 6.0	385 19.3	480 23.9	452 22.7
共産党	231 11.5	315 15.7	169 8.5	306 15.3	253 12.7
公明党	104 5.2	125 6.3	84 4.2	109 5.4	107 5.4
民社党	142 7.1	21 1.1	118 5.9	116 5.8	123 6.2
その他	16 0.8	8 0.4	70 3.5	67 3.3	7 0.3
なし	330 16.4	321 16.0	187 9.4	116 5.8	282 14.1
わからない	109 5.4	268 13.4	267 13.4	142 7.1	95 4.8

2　自民党観

(1)　「現在，政権を担当しているのは自民党ですが，あなたは自民党が好きでしょうか，それとも嫌いでしょうか」という質問によって，「自民党観」をとらえようとしたが，その結果からは，政府与党である自民党を「非常に好き」な者がわずかに6.3%(122人)にしかすぎず，反対に自民党が「非常に嫌い」な者の割合はそのほぼ3倍強の20.9%(401人)におよび，その両者の中間に「やや好き」(34.0%，653人）あるいは「やや嫌い」(31.9%，613人）とする多数の回答者がいるということがしられる。なお，「わからない」は6.9%（132人）となっている。

(2)　自民党に対して「非常に好き」あるいは「非常に嫌い」という両極の態度を示す回答者の特性をみるために，つぎに，自民党観とデモグラフィク要因とのクロス集計表を検討することにする。

①　自民党観と性との関係については，第8表から，自民党を「非常に好き」とする者では男性の割合がきわめて高く，「非常に嫌い」とする者でも男性の割合がいくぶん高いことがわかる。

第8表　自民党観と性別

自民党観＼性別	男	女	計
非常に好き	77 64.2	43 35.8	120 100.0
やや好き	359 56.1	281 43.9	640 100.0
やや嫌い	304 50.3	300 49.7	604 100.0
非常に嫌い	214 54.6	178 45.4	392 100.0
わからない	41 31.3	90 68.7	131 100.0
計	995 52.7	892 47.3	1,887 100.0

②　自民党観と年令との関係については，第9

第9表　自民党観と年令

自民党観＼年令	19才以下	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50～54才	55～59才	60～64才	65～69才	70才以上	計
非常に好き	3 2.4	6 4.9	6 4.9	7 5.7	10 8.1	11 8.9	19 15.4	15 12.2	9 7.3	9 7.3	9 7.3	19 15.4	123 100.0
やや好き	1 0.2	23 3.5	45 6.9	52 8.0	69 10.6	93 14.2	88 13.5	81 12.4	59 9.0	46 7.0	52 8.0	45 6.9	654 100.0
やや嫌い	1 0.2	48 7.9	62 10.1	80 13.1	88 14.4	79 12.9	88 14.4	55 9.0	39 6.4	30 4.9	26 4.3	15 2.5	611 100.0
非常に嫌い	6 1.5	54 13.6	56 14.1	50 12.6	58 14.6	40 10.1	31 7.8	32 8.0	22 5.5	20 5.0	18 4.5	11 2.8	398 100.0
わからない	4 3.0	17 12.9	17 12.9	15 11.4	13 9.8	17 12.9	15 11.4	5 3.8	8 6.1	7 5.3	6 4.5	8 6.1	132 100.0
計	15 0.8	148 7.7	186 9.7	204 10.6	238 12.4	240 12.5	241 12.6	188 9.8	137 7.1	112 5.8	111 5.8	98 5.1	1,918 100.0

表から，自民党を「非常に好き」とする者では45才以上，とくに，70才以上の割合が高く，「非常に嫌い」とする者では39才以下，とくに，20〜24才の割合が高いといえる。

③　自民党観と学歴との関係については，第10表から，自民党を「非常に好き」とする回答者では小中卒がいくぶん多く高卒がいくぶん少ないが，「非常に嫌い」とする回答者では学歴による差異がほとんどみられない。

④　自民党観と職業との関係については，第11表から，自民党が「非常に好き」な者は管理職と商工サービス自営で，また，「非常に嫌い」な者は事務職と労務職と学生で割合が高いことがしられる。

第10表　自民党観と学歴

学歴 / 自民党観	小学校，旧制高等小学校，新制中学校	旧制中学校，新制高等学校	専門学校 短期大学 大学 大学院	計
非常に好き	45 37.5	44 36.7	31 25.8	120 100.0
やや好き	229 35.3	268 41.4	151 23.3	648 100.0
やや嫌い	170 28.1	278 46.0	157 26.0	605 100.0
非常に嫌い	115 29.0	176 44.3	106 26.7	397 100.0
わからない	42 32.1	62 47.3	27 20.6	131 100.0
計	601 31.6	828 43.6	472 24.8	1,901 100.0

第11表　自民党観と職業

職業 / 自民党観	農林漁業	専門職	管理職	事務・販売・サービス職	技能・生産工程・労務職	商工サービス自営	家族従業者	主婦	学生	無職	その他	計
非常に好き	2 1.7	7 5.8	19 15.8	16 13.3	16 13.3	18 15.0	5 4.2	19 15.8	4 3.3	14 11.7	0 0.0	120 100.0
やや好き	10 1.6	32 5.0	100 15.6	106 16.5	72 11.2	79 12.3	18 2.8	161 25.1	5 0.8	51 7.9	8 1.2	642 100.0
やや嫌い	2 0.3	40 6.6	62 10.2	102 16.7	122 20.0	28 4.6	8 1.3	183 30.0	8 1.3	49 8.0	5 0.8	609 100.0
非常に嫌い	1 0.3	30 7.6	19 4.8	88 22.3	80 20.3	16 4.1	6 1.5	105 26.6	22 5.6	24 6.1	3 0.8	394 100.0
わからない	2 1.5	2 1.5	6 4.6	22 16.9	15 11.5	8 6.2	5 3.8	48 36.9	5 3.8	15 11.5	2 1.5	130 100.0
計	17 0.9	111 5.9	206 10.9	334 17.6	305 16.1	149 7.9	42 2.2	516 27.2	44 2.3	153 8.1	18 0.9	1,895 100.0

⑤　自民党観と階層帰属意識との関係については，第12表から，自民党の「非常に好き」な者は「上」と「中の上」，「非常に嫌い」な者は「中の下」と「下」でそれぞれ多いことがわかる。

第12表　自民党観と階層

階層 / 自民党観	上	中の上	中の中	中の下	下	計
非常に好き	8 6.6	37 30.3	61 50.0	9 7.4	7 5.7	122 100.0
やや好き	18 2.8	151 23.2	384 59.1	84 12.9	13 2.0	650 100.0
やや嫌い	8 1.3	104 17.0	365 59.7	122 20.0	12 2.0	611 100.0
非常に嫌い	2 0.5	39 9.8	214 53.6	117 29.3	27 6.8	399 100.0
わからない	0 0.0	24 18.5	69 53.1	31 23.8	6 4.6	130 100.0
計	36 1.9	355 18.6	1,093 57.2	363 19.0	65 3.4	1,912 100.0

(3)　つぎに，自民党観と支持政党との関係については，第13表のようなクロス集計表をえた。この結果からはつぎのことが指摘できる。

①　全体的にみたばあいに自民党を「非常に好き」とする割合は6.4％であるが，自民党支持者のばあいにはこれがほぼ3倍の18.7％にまでなっている。しかし，この数値は，政府与党に対する好悪の感情の表出としては，けっして高いものとはいえない。ただ，「やや好き」の71.4％を加えるならば，ともかく，自民党を「好き」とする割合は9割をこえる。大きな数値ではないが，自民党が嫌いであるにもかかわらず支持している者が6.9％（44人）いることもしっておかなければならない。

②　民社党支持者では「やや嫌い」と「やや好き」の割合が50.8％と43.2％でつりあっており，

第13表　支持政党と自民党観

支持政党＼自民党観	非常に好き	やや好き	やや嫌い	非常に嫌い	わからない	計
自民党	119 18.7	455 71.4	39 6.1	5 0.8	19 3.0	637 100.0
社会党	1 0.2	51 11.6	240 54.5	129 29.3	19 4.3	440 100.0
共産党	0 0.0	13 5.3	83 33.9	145 59.2	4 1.6	245 100.0
公明党	0 0.0	8 7.9	41 40.6	46 45.5	6 5.9	101 100.0
民社党	0 0.0	51 43.2	60 50.8	5 4.2	2 1.7	118 100.0
その他	0 0.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	0 0.0	6 100.0
なし	1 0.4	44 16.9	114 43.7	60 23.0	42 16.1	261 100.0
わからない	0 0.0	19 22.1	25 29.1	5 5.8	37 43.0	86 100.0
計	121 6.4	642 33.9	605 31.9	397 21.0	129 6.8	1,894 100.0

「非常に好き」はまったくいないが，「非常に嫌い」もごくわずかである。

③　社会党支持者では「やや嫌い」（54.5%）と「非常に嫌い」（29.3%）の割合が高く，「やや好き」は11.6%にすぎない。

④　共産党と公明党の支持者では「非常に嫌い」の割合が59.2%，45.5%ときわめて高く，つぎの「やや嫌い」も33.9%，40.6%と高く，「非常に好き」がまったくいないことはともかくとして，「やや好き」の割合もわずかしかない。

⑤　支持なし層では「やや好き」が16.9%で，この割合は社会党支持者での11.6%にくらべてやや高いが，ここで，とくに高い割合をしめているのは「やや嫌い」の43.7%，つぎが「非常に嫌い」の23.0%となっている。

⑥　以上から，自民党を「嫌い（非常に嫌い＋やや嫌い）」とする者の割合は，共産党の93.1%，公明党の86.1%，社会党の83.8%，支持政党がない者の66.7%，民社党の55.0%，自民党の6.9%という順位である。

(4)　さらに，自民党が好きか嫌いかということと実績や実行力のすぐれた政党の認知との関係については，第14表のようなクロス集計表がえられた。自民党を「非常に好き」「やや好き」とする層では，実績や実行力のすぐれた政党として自民党をあげる割合が圧倒的に高いのに対して，「やや嫌い」とする層ではこの割合が急激に減り，とくに「非常に嫌い」とする層ではこれが1割未満に落ち，かわって共産党をあげる者が4割強もでてくるのである。このことから，自民党の実績や実行力がすぐれているかどうかの「認知」に対しては，自民党が好きか嫌いかの「感情」がかなり影響しているように思われるのである。

第14表　自民党観と実績・政策・実行力のすぐれた政党

自民党観＼実績・政策・実行力のすぐれた政党	自民党	社会党	共産党	公明党	民社党	その他	なし	わからない	計
非常に好き	112 91.8	0 0.0	2 1.6	0 0.0	1 0.8	0 0.0	4 3.3	3 2.5	122 100.0
やや好き	458 71.2	17 2.6	31 4.8	12 1.9	11 1.7	3 0.5	53 8.2	58 9.0	643 100.0
やや嫌い	147 24.3	59 9.8	111 18.4	48 7.9	7 1.2	3 0.5	136 22.5	93 15.4	604 100.0
非常に嫌い	32 8.0	36 9.0	161 40.5	53 13.3	2 0.5	2 0.5	84 21.1	28 7.0	398 100.0
わからない	30 22.9	5 3.8	4 3.1	7 5.3	0 0.0	0 0.0	24 18.3	61 46.6	131 100.0
計	779 41.0	117 6.2	309 16.3	120 6.3	21 1.1	8 0.4	301 15.9	243 12.8	1,898 100.0

3　田中内閣観

(1)　田中内閣の支持あるいは不支持の方向については第15表に示したとおりである。全体的にみるならば，「支持していない」が最も多く，反対に，「支持している」が最も少ない。とくに，自民党支持者以外で田中内閣を支持する者はほとんどいない。もっとも，自民党の支持者でも「支持している」は22.2%で，「まあ支持している」という弱い支持のほうがほぼ2倍強の46.6%となっており，「支持していない」と「あまり支持して

第15表　支持政党と田中内閣支持

支持政党＼田中内閣支持	支持している	まあ支持している	あまり支持していない	支持していない	わからない	計
自民党	146 22.2	307 46.6	149 22.6	39 5.9	18 2.7	659 100.0
社会党	6 1.4	32 7.3	148 33.6	247 56.1	7 1.6	440 100.0
共産党	0 0.0	9 3.6	39 15.7	194 78.2	6 2.4	248 100.0
公明党	0 0.0	7 6.7	30 28.6	64 61.0	4 3.8	105 100.0
民社党	6 5.0	29 24.0	53 43.8	29 24.0	4 3.3	121 100.0
その他	0 0.0	1 14.3	2 28.6	4 57.1	0 0.0	7 100.0
なし	3 1.1	25 9.1	103 37.6	130 47.4	13 4.7	274 100.0
わからない	1 1.1	14 15.6	34 37.8	17 18.9	24 26.7	90 100.0
計	162 8.3	424 21.8	558 28.7	724 37.2	76 3.9	1,944 100.0

いない」の合計は28.5%になっている。また，田中内閣に対する不支持（支持していない＋あまり支持していない）の割合は共産党で93.9%にまでたっし，以下，社会党の89.7%と公明党の89.6%，支持なし層の85.0%，民社党の67.8%，自民党の28.5%の順である。

(2)　田中内閣の支持層と不支持層の特性をみるために，デモグラフィック要因とのクロス集計表（第16～20表）を検討するならば，田中内閣の支持層では男性，50代以上，小中卒，管理職と無職，「上」と「中の上」の割合が高いのに対して，不支持層では，男性，20代と30代，大卒，事務職と労務職，「中の下」の割合が高いことがしられるのである。

第16表　田中内閣支持と性別

田中内閣支持＼性別	男	女	計
支持している	102 63.0	60 37.0	162 100.0
まあ支持している	236 56.1	185 43.9	421 100.0
あまり支持していない	255 46.3	296 53.7	551 100.0
支持していない	391 54.1	332 45.9	723 100.0
わからない	27 34.2	52 65.8	79 100.0
計	1,011 52.2	925 47.8	1,936 100.0

第18表　田中内閣支持と学歴

田中内閣支持＼学歴	小学校，旧制高等小学校，新制中学校	旧制中学校，新制高等学校	専門学校 短期大学 大学 大学院	計
支持している	71 43.3	56 34.1	37 22.6	164 100.0
まあ支持している	138 32.4	184 43.2	104 24.4	426 100.0
あまり支持していない	165 29.7	254 45.7	137 24.6	556 100.0
支持していない	214 29.4	320 44.0	193 26.5	727 100.0
わからない	34 43.6	32 41.0	12 15.4	78 100.0
計	622 31.9	846 43.4	483 24.8	1,951 100.0

第17表　田中内閣支持と年令

田中内閣支持＼年令	19才以下	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50～54才	55～59才	60～64才	65～69才	70才以上	計
支持している	1 0.6	6 3.6	5 3.0	10 6.0	11 6.6	8 4.8	23 13.8	23 13.8	18 10.8	17 10.2	15 9.0	30 18.0	167 100.0
まあ支持している	1 0.2	15 3.5	32 7.4	31 7.2	47 10.9	62 14.4	56 13.0	43 10.0	39 9.0	39 9.0	38 8.8	28 6.5	431 100.0
あまり支持していない	3 0.5	41 7.3	51 9.1	64 11.5	72 12.9	79 14.2	83 14.9	60 10.8	28 5.0	26 4.7	34 6.1	17 3.0	558 100.0
支持していない	8 1.1	86 11.7	88 12.0	102 13.9	108 14.7	90 12.3	73 10.0	60 8.2	46 6.3	25 3.4	27 3.7	20 2.7	733 100.0
わからない	2 2.5	8 10.1	9 11.4	4 5.1	8 10.1	9 11.4	10 12.7	6 7.6	5 6.3	7 8.9	2 2.5	9 11.4	79 100.0
計	15 0.8	156 7.9	185 9.4	211 10.7	246 12.5	248 12.6	245 12.4	192 9.8	136 6.9	114 5.8	116 5.9	104 5.3	1,968 100.0

第19表　田中内閣支持と職業

田中内閣支持＼職業	農林漁業	専門職	管理職	事務・販売・サービス職	技能・生産工程・労務職	商工サービス自営	家族従業者	主婦	学生	無職	その他	計
支持している	5 3.1	11 6.7	30 18.4	23 14.1	19 11.7	17 10.4	8 4.9	24 14.7	1 0.6	24 14.7	1 0.6	163 100.0
まあ支持している	3 0.7	25 6.0	60 14.3	68 16.2	50 11.9	54 12.9	13 3.1	106 25.3	5 1.2	31 7.4	4 1.0	419 100.0
あまり支持していない	7 1.3	21 3.8	68 12.2	84 15.1	85 15.2	37 6.6	12 2.2	192 34.4	10 1.8	35 6.3	7 1.3	558 100.0
支持していない	2 0.3	54 7.4	50 6.9	149 20.4	144 19.8	41 5.6	14 1.9	194 26.6	28 3.8	50 6.9	3 0.4	729 100.0
わからない	1 1.3	2 2.6	3 3.9	12 15.6	11 14.3	5 6.5	0 0.0	24 31.2	3 3.9	15 19.5	1 1.3	77 100.0
計	18 0.9	113 5.8	211 10.8	336 17.3	309 15.9	154 7.9	47 2.4	540 27.7	47 2.4	155 8.0	16 0.8	1,946 100.0

第20表　田中内閣支持と階層

田中内閣支持＼階層	上	中の上	中の中	中の下	下	計
支持している	8 4.8	46 27.9	84 50.9	18 10.9	9 5.5	165 100.0
まあ支持している	10 2.3	93 21.7	257 60.0	61 14.3	7 1.6	428 100.0
あまり支持していない	9 1.6	115 20.5	323 57.7	96 17.1	17 3.0	560 100.0
支持していない	9 1.2	97 13.3	417 57.0	178 24.4	30 4.1	731 100.0
わからない	0 0.0	13 16.5	47 59.5	15 19.0	4 5.1	79 100.0
計	36 1.8	364 18.5	1,128 57.5	368 18.7	67 3.4	1,963 100.0

4　自民党内閣観

(1)　「あなたは，自民党内閣が，他の政党による内閣，あるいは，他の政党との連立内閣にできるだけ早い時期にかわることが望ましいと思いますか」という質問に対する回答は「思う」が55.1％（1,088人），「思わない」が28.0％（554人），「わからない」が16.9％（334人）という結果になった。「わからない」の割合が他の質問のばあいとくらべていくぶん高くなっていることはともかくとして，「思う」が回答者の半数をこえ，「思わない」をはるかにしのいでいるということは注目されなければならない。

(2)　つぎに，自民党内閣の変化を求める者にその理由をたずねたところ，「現在の経済や政治の仕組（体制）をかえるため」という回答の割合が55.9％（581人）で最も高く，以下，「現在の政策をかえるため」の28.8％（299人），「自民党の理想や価値観に賛成できないから」の13.0％（135人）がつづき，「自民党が嫌いだから」という回答はきわめてわずかの割合（2.3％，24人）となった。

(3)　さらに，自民党内閣の変化がのぞましいと考える者に，どのような内閣になることがのぞましいかを，かさねて，たずねることによって，第21表のような回答をえた。最も多い回答は，「自民党と社会党の連立内閣」の22.8％で，つぎが，「社会党と共産党の連立内閣」の18.3％で，以下，いくぶん多いのが，「社会党と公明党と共産党の連立内閣」(10.0％)，「社会党と公明党と民社党の連立内閣」(8.8％)，「社会党の単独内閣」(8.2％)，「自民党と民社党の連立内閣」(7.8％）などといったところであり，とくに，いずれかに回答が集中するということはなかった。ここでは，つぎの

第21表　希望する内閣の型

社会党の単独内閣	83	8.2
自民党と社会党の連立内閣	232	22.8
共産党の単独内閣	32	3.1
社会党と共産党の連立内閣	186	18.3
民社党の単独内閣	13	1.3
自民党と民社党の連立内閣	79	7.8
公明党の単独内閣	31	3.0
社会党と公明党と民社党の連立内閣	90	8.8
自民党と民社党と公明党の連立内閣	40	3.9
社会党と公明党と共産党の連立内閣	102	10.0
その他	72	7.1
わからない	59	5.8
計	1,019	100.0

三つの点から考察を加えておこう。

① 「単独内閣」と「連立内閣」をくらべると，前者が15.6%，後者が71.6%で，後者の割合が圧倒的に高い。このことから，人びとは，連立内閣というものへの期待を強くもっていると考えられるのである。

② 「自民党と他の政党の連立内閣」と「自民党以外の政党による内閣」をくらべると，前者が34.5%，後者が52.7%で，後者の割合がかなり高い。つまり，自民党が完全に政権からはなれることをのぞんでいる者のほうが1.5倍も多いのである。

③ 「共産党内閣および共産党が加わった連立内閣」と「共産党が加わらない内閣」をくらべると，前者が31.4%，後者が55.8%で，後者のほうが1.5倍強もでてくる。ところで,前者の31.4%は実数では320人であるが，これは，さきの「政権を担当するべき政党」という質問で共産党をあげた169人のほぼ2倍であり，「実績・実行力のすぐれた政党」で共産党と判断した315人にちかい人数である。また，ここでの質問において「共産党の単独内閣」がのぞましいという回答者はわずかに32人（調査対象者全体の1.6%）となっている。つまり，「政権を担当するべき政党」として共産党をあげる者でも，その政権の担当の仕方として「共産党の単独内閣」をのぞむ者はきわめて少ないと推測されるのである。これらのことからも，たとえば，共産党については，「支持態度」と「内閣実現志向」はすぐには結びつかないといえよう。

(4) 最後に，調査対象者全員に対して，現在の日本で共産党を加えた連立政権ができたばあいに，それが数年以内に共産党政権に変るかどうかといった「予想」と，つぎに，そうなることが望ましいかどうかといった「希望」についての質問をこころみた。

① このような質問に対する回答は，まず，「予想」については，「可能性は高い」が23.0%（432人），「可能性は低い」が62.2%（1,166人），「わからない」が14.8%（278人）となっており，つぎに，「希望」については，「望ましい」が14.1%（257人），「望ましくない」が70.0%（1,275人），「わからない」が15.9%（290人）という結果になっている。これによるならば，予想についても，希望についても，否定的な回答が肯定的な回答をはるかに（前者で約3倍，後者で約5倍）上回っていることがしられる。

② つぎに，「予想」と「希望」との関係をとらえるために，各政党支持者別のトリプル・クロス表をつくった（第22表）。この結果からはつぎのようなことがしられる。

第22表　政党支持別の「予想」と「希望」

（自民党支持者）

予想＼希望	そうなることは望ましい	そうなることは望ましくない
そうなる可能性は高い	1.7	17.5
そうなる可能性は低い	2.0	63.3

（社会党支持者）

予想＼希望	そうなることは望ましい	そうなることは望ましくない
そうなる可能性は高い	5.1	14.0
そうなる可能性は低い	9.6	50.0

（共産党支持者）

予想＼希望	そうなることは望ましい	そうなることは望ましくない
そうなる可能性は高い	24.2	6.3
そうなる可能性は低い	22.9	28.7

（公明党支持者）

予想＼希望	そうなることは望ましい	そうなることは望ましくない
そうなる可能性は高い	3.3	15.2
そうなる可能性は低い	2.1	63.0

（民社党支持者）

予想＼希望	そうなることは望ましい	そうなることは望ましくない
そうなる可能性は高い	0.9	27.7
そうなる可能性は低い	3.6	54.5

i）自民党支持者と公明党支持者では，「可能性も低く望ましくもない」とする回答が6割強におよび，「可能性は高いが望ましくない」とする回答が17.5%と15.2%でそのほぼ⅓と¼程度となっており，「可能性は高く望ましい」と「可能性

は低いが望ましい」の回答はそれぞれごくわずかの割合（1.7%，2.0%と3.3%，2.1%）しかでてきていない。

ii）社会党支持者では，「可能性も低く望ましくもない」とする回答は5割までをしめているが，自民党支持者と公明党支持者にくらべて，「可能性は高く望ましい」と「可能性は低いが望ましい」の割合がいくぶん高くなっている（5.1%と9.6%）。

iii）民社党支持者でも，「可能性も低く望ましくもない」の割合は5割強となっており，「可能性は高く望ましい」と「可能性は低いが望ましい」という回答も自民党支持者や公明党支持者のばあいとだいたいにおいて同じ傾向を示しているがただ，「可能性は高いが望ましくない」の割合が3割がたみられるところがきわだっている。

iv）共産党支持者では，他の政党支持者とくらべて，「可能性も低く望ましくもない」という回答がかなり少なく，それに対して，「可能性は高く望ましい」と「可能性は低いが望ましい」の回答がかなり多く，この3つの型の割合がほとんどつりあうまでになっているが，「可能性は高いが望ましくない」の回答はいくぶん少ないというように，まったく異なる傾向がみられる。

③　最後に，共産党政権にかわることが「望ましい」とする257人という数が問題になる。というのは，これまでの質問で，「共産党が加わったなんらかの内閣」を希望する者は320人，「実績・実行力のすぐれた政党」を共産党と判断する者は315人，「政権を担当するべき政党」として共産党をあげる者は169人，「共産党の単独内閣」を希望する者は32人となっており，今度の「共産党を加えた連立政権ができたばあいには，数年以内に共産党政権にかわることを希望する」者が257人となっているのである。これらの結果からさまざまの議論ができよう。たとえば，「政権を担当するべき政党」で共産党をあげる169人と「共産党政権にかわることを希望する」257人を対比したばあいに，後者のほうが88人も多くなっているが，これは，「連立政権ができたばあいには」ひと思いに「共産党政権」になることを希望する「なるようになる意識」をもつ者なのであろうか，あるいは，「共産党の単独内閣」を希望する者が32人とごく少数であるのは，この人たちははじめから共産党政権ができることを希望する「即時的変化の希望者」で，それに対して，さきの257人の人たちは，自民党政権→連立政権→共産党政権という「段階的変化の希望者」であると考えられるのであろうか，などである。そして，ここでは，「なるようになる意識」を，たんに状況のままに流されるという「受動的な意識」だけではなく，機会の到来とともにそれに乗ずるという意味で「能動的な意識」がひめられている（神島二郎「日本人の政治意識」『現代日本の政治』1968，P．92）というふうに考えているのである。このような問題も今後の重要な課題といえよう。

5　体制観

(1)　「あなたは，現在の日本社会では，どのような経済や政治の仕組（体制）が望ましいと思いますか」という質問については，第23表のような回答がえられた。今のままの体制を希望する者が72.2%で圧倒的に多数をしめており，特定の型の体制をあげる者はそれぞれわずかの割合でしかない。ただこれらを合計すると12.4%（240人）になることも注目されなければならない。というのは，さきの質問で，自民党内閣の変化を期待した者のうち，581人がその理由として「体制の変化」という回答をしているが，ここでの240人と対比させるならば，それは，2.4倍もの人数である。そこで，ここにいたるまでの質問で調査対象者が考えた「体制」とはいわゆる「体制内改革」までをふくむ「広義の体制」であり，それに対して，ここでは，特定の型が選択肢として提示されるこ

第23表　体制の型

今のままの体制	1,394	72.2
ソ連・東欧型の体制	62	3.2
中国型の体制	85	4.4
北朝鮮型の体制	14	0.7
ユーゴ型の体制	17	0.9
キューバ型の体制	6	0.3
チリ型の体制	6	0.3
今の体制以外であればどれでもよい	50	2.6
どれでもよい	26	1.4
その他	49	2.5
わからない	223	11.5
計	1,932	100.0

とによって「狭義の体制」が考えられたという推測がなされるであろう。また，ここでの240人という数は，さきの「共産党を加えた連立政権ができたばあいには，数年以内に，共産党政権になることがのぞましい」と答えた257人という数とかなり近いものであることを指摘しておこう。さらに，ここで，「どれでもよい」と答えるいわゆる「体制無関心層」は1.4％しかなかったが，「わからない」という回答は1割強あったということも付記しておかなければならない。

(2)　「体制観」と「支持政党」との関係については，第24表に示している。各政党の支持者のなかで「今のままの体制」をのぞむ者の割合は，自民党（88.4%），民社党（84.3%），公明党（73.7%），社会党（69.0%），支持なし層（63.3%），共産党（47.5%）という順になっている。自民党の支持者の88.4％までが「今のままの体制」を希望していることはうなずけるとしても，共産党支持者の47.5%，つまり，ほぼ半数までが「今のままの体制」をのぞましいとしており，「今の体制以外」を希望する者よりも1割がた多くなっていることは注目される。これらのことからも，共産党支持者については，「本来的・完結的支持者」がいまだ少なく，そのまわりを，自民党および自民党内閣になんらかの不満をもち共産党の「実績や実行力」による「体制内変革」を望むかなりの割合におよぶ「機能的・手段的支持者」がとりまいているということが推測されるのである。また，体制の選択について「わからない」とする回答が，公明党支持者層と支持なし層，それに社会党支持者層でいくぶん多かったことを付記しておこう。

(3)　つぎに，「今のままの体制を希望する者」と「今の体制以外を希望する者」の特性をみるためにデモグラフィック要因とのクロス集計表を検討する。ただ，個々の型の体制のうち実数が少ないものについては，はっきりした傾向を指摘することができないので，「ソ連・東欧型の体制」「中国型の体制」「今の体制以外であればどれでもよい」だけを比較してみた。また，参考までに「どれでもよい」という「体制無関心層」の特性もみておいた。（第25～29表）。

①　「今のままの体制」と「今の体制以外」をくらべるならば，前者では，男性，50代以上，管理職，「上」と「中の上」の割合がいくぶん高く，後者では，20代と30代，事務職と労務職と学生，「中の下」と「下」の割合がいくぶん高い。

②「ソ連・東欧型の体制」と「中国型の体制」をくらべるならば，前者では，女性，25～29才，高卒，事務職，「中の下」，後者では，男性，30～

第24表　支持政党と体制の型

支持政党＼体制の型	今のままの体制	ソ連・東欧型の体制	中国型の体制	北朝鮮型の体制	ユーゴ型の体制	キューバ型の体制	チリ型の体制	今の体制以外であればどれでもよい	どれでもよい	その他	わからない	計
自民党	569 88.4	4 0.6	6 0.9	2 0.3	1 0.2	0 0.0	0 0.0	5 0.8	7 1.1	7 1.1	43 6.7	644 100.0
社会党	300 69.0	13 3.0	33 7.6	2 0.5	10 2.3	0 0.0	1 0.2	12 2.8	5 1.1	8 1.8	51 11.7	435 100.0
共産党	116 47.5	29 11.9	32 13.1	10 4.1	3 1.2	3 1.2	5 2.0	13 5.3	2 0.8	13 5.3	18 7.4	244 100.0
公明党	73 73.7	0 0.0	6 6.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.0	0 0.0	1 1.0	16 16.2	99 100.0
民社党	102 84.3	1 0.8	0 0.0	0 0.0	2 1.7	0 0.0	0 0.0	2 1.7	2 1.7	3 2.5	9 7.4	121 100.0
その他	4 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	6 100.0
なし	171 63.3	12 4.4	6 2.2	0 0.0	0 0.0	2 0.7	0 0.0	12 4.4	7 2.6	15 5.6	45 16.7	270 100.0
わからない	42 48.3	2 2.3	2 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.3	3 3.4	1 1.1	35 40.2	87 100.0
計	1,377 72.2	61 3.2	85 4.5	14 0.7	16 0.8	6 0.3	6 0.3	49 2.6	26 1.4	49 2.6	217 11.4	1,906 100.0

34才，小中卒と大卒，労務職，「中の下」と「下」の割合がそれぞれいくぶん高い。

③　「今の体制以外であればどれでもよい」は女性，20～24才と30～34才，小中卒，事務職と労務職と学生，「中の上」と「中の下」と「下」でいくぶん多くなっている。

④　「どれでもよい」という「体制無関心層」は，男性，45～49才，小中卒，労務職，「中の中」で割合でいくぶん高い。

⑤　「わからない」は，女性，40～44才と70才以上，小中卒，主婦，「中の下」でいくぶん高いようである。

(4)　さらに，このような「体制の型」を「内閣の型」との関連において考察するために第30表をつくってみた。自民党内閣ができるだけ早い時期にかわることを希望する者のうちでそれぞれの内閣の型を選好する群ごとの「今の体制への志向度」をみていくならば，「自民党と民社党の連立内閣」の92.0%，「自民党と民社党と公明党の連立内閣」の87.5%，「自民党と社会党の連立内

第25表　体制の型と性別

体制の型＼性別	男	女	計
今のままの体制	758 55.3	612 44.7	1,370 100.0
ソ連・東欧型の体制	29 46.8	33 53.2	62 100.0
中国型の体制	44 53.0	39 47.0	83 100.0
北朝鮮の体制	10 71.4	4 28.6	14 100.0
ユーゴ型の体制	11 64.7	6 35.3	17 100.0
キューバ型の体制	6 100.0	0 0.0	6 100.0
チリ型の体制	4 66.7	2 33.3	6 100.0
今の体制以外であればどれでもよい	19 38.8	30 61.2	49 100.0
どれでもよい	15 57.7	11 42.3	26 100.0
そ　の　他	31 64.6	17 35.4	48 100.0
わからない	76 34.7	143 65.3	219 100.0
計	1,003 52.8	897 47.2	1,900 100.0

第26表　体制の型と年令

体制の型＼年令	19才以下	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50～54才	55～59才	60～64才	65～69才	70才以上	計
今のままの体制	8 0.6	92 6.6	132 9.5	135 9.7	163 11.7	176 12.6	188 13.5	144 10.3	107 7.7	93 6.7	85 6.1	71 5.1	1,394 100.0
ソ連・東欧型の体制	0 0.0	6 9.8	14 23.0	6 9.8	12 19.7	7 11.5	8 13.1	5 8.2	1 1.6	0 0.0	2 3.3	0 0.0	61 100.0
中国型の体制	3 3.6	6 7.1	6 7.1	17 20.2	16 19.0	10 11.9	6 7.1	8 9.5	7 8.3	3 3.6	1 1.2	1 1.2	84 100.0
北朝鮮の体制	0 0.0	0 0.0	1 7.1	2 14.3	0 0.0	3 21.4	2 14.3	2 14.3	1 7.1	2 14.3	1 7.1	0 0.0	14 100.0
ユーゴ型の体制	0 0.0	6 35.3	3 17.6	1 5.9	4 23.5	1 5.9	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 100.0
キューバ型の体制	0 0.0	3 50.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	6 100.0
チリ型の体制	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 50.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	6 100.0
今の体制以外であればどれでもよい	0 0.0	8 16.0	5 10.0	9 18.0	7 14.0	4 8.0	4 8.0	6 12.0	1 2.0	3 6.0	2 4.0	1 2.0	50 100.0
どれでもよい	1 3.8	2 7.7	2 7.7	3 11.5	3 11.5	3 11.5	7 26.9	3 11.5	0 0.0	0 0.0	1 3.8	1 3.8	26 100.0
そ　の　他	1 2.0	11 22.4	6 12.2	8 16.3	6 12.2	7 14.3	1 2.0	2 4.1	2 4.1	2 4.1	1 2.0	2 4.1	49 100.0
わからない	2 0.9	21 9.4	17 7.6	26 11.7	24 10.8	35 15.7	24 10.8	20 9.0	12 5.4	12 5.4	14 6.3	16 7.2	223 100.0
計	15 0.8	155 8.0	187 9.7	210 10.9	236 12.2	247 12.8	243 12.6	190 9.8	131 6.8	115 6.0	109 5.6	92 4.8	1,930 100.0

第27表　体制の型と学歴

学歴 / 体制の型	小学校，旧制高等小学校，新制中学	旧制中学校，新制高等学校	専門学校 短期大学 大学 大学院	計
今のままの体制	415 30.1	606 43.9	359 26.0	1,380 100.0
ソ連・東欧型の体制	12 19.4	35 56.5	15 24.2	62 100.0
中国型の体制	28 32.9	33 38.8	24 28.2	85 100.0
北朝鮮型の体制	4 28.6	7 50.0	3 21.4	14 100.0
ユーゴ型の体制	2 12.5	9 56.2	5 31.2	16 100.0
キューバ型の体制	2 33.3	2 33.3	2 33.3	6 100.0
チリ型の体制	2 33.3	2 33.3	2 33.3	6 100.0
今の体制以外であればどれでもよい	17 34.0	21 42.0	12 24.0	50 100.0
どれでもよい	9 34.6	15 57.7	2 7.7	26 100.0
そ の 他	5 10.2	23 46.9	21 42.9	49 100.0
わからない	100 45.7	81 37.0	38 17.4	219 100.0
計	596 31.2	834 43.6	483 25.2	1,913 100.0

第29表　体制の型と階層

階層 / 体制の型	上	中の上	中の中	中の下	下	計
今のままの体制	32 2.3	279 20.1	798 57.5	237 17.1	42 3.0	1,388 100.0
ソ連・東欧型の体制	0 0.0	5 8.1	35 56.5	21 33.9	1 1.6	62 100.0
中国型の体制	0 0.0	12 14.1	50 58.8	18 21.2	5 5.9	85 100.0
北朝鮮型の体制	0 0.0	0 0.0	6 42.9	7 50.0	1 7.1	14 100.0
ユーゴ型の体制	0 0.0	2 11.8	10 58.8	4 23.5	1 5.9	17 100.0
キューバ型の体制	0 0.0	0 0.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0	6 100.0
チリ型の体制	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 66.7	2 33.3	6 100.0
今の体制以外であればどれでもよい	0 0.0	15 30.0	23 46.0	10 20.0	2 4.0	50 100.0
どれでもよい	0 0.0	4 15.4	20 76.9	1 3.8	1 3.8	26 100.0
そ の 他	0 0.0	8 16.7	28 58.3	10 20.8	2 4.2	48 100.0
わからない	4 1.8	35 15.8	129 58.4	45 20.4	8 3.6	221 100.0
計	36 1.9	360 18.7	1,102 57.3	360 18.7	65 3.4	1,923 100.0

第28表　体制の型と職業

職業 / 体制の型	農林漁業	専門職	管理職	事務・販売・サービス職	技能・生産工程・労務職	商工サービス自営	家族従業者	主婦	学生	無職	その他	計
今のままの体制	14 1.0	81 5.9	188 13.6	226 16.4	208 15.1	119 8.6	34 2.5	365 26.5	22 1.6	105 7.6	16 1.2	1,378 100.0
ソ連・東欧型の体制	0 0.0	6 9.8	4 6.6	19 31.1	9 14.8	3 4.9	0 0.0	18 29.5	0 0.0	2 3.3	0 0.0	61 100.0
中国型の体制	0 0.0	6 7.1	4 4.8	14 16.7	18 21.4	7 8.3	2 2.4	28 33.3	4 4.8	1 1.2	0 0.0	84 100.0
北朝鮮型の体制	0 0.0	1 7.7	1 7.7	5 38.5	3 23.1	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 15.4	0 0.0	13 100.0
ユーゴ型の体制	0 0.0	0 0.0	1 5.9	2 11.8	5 29.4	1 5.9	1 5.9	2 11.8	4 23.5	0 0.0	1 5.9	17 100.0
キューバ型の体制	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	6 100.0
チリ型の体制	0 0.0	1 16.7	0 0.0	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	6 100.0
今の体制以外であればどれでもよい	0 0.0	2 4.0	1 2.0	11 22.0	9 18.0	4 8.0	1 2.0	15 30.0	2 4.0	5 10.0	0 0.0	50 100.0
どれでもよい	3 11.5	0 0.0	3 11.5	2 7.7	6 23.1	3 11.5	0 0.0	8 30.8	1 3.8	0 0.0	0 0.0	26 100.0
そ の 他	0 0.0	4 8.2	2 4.1	12 24.5	11 22.4	3 6.1	2 4.1	6 12.2	4 8.2	4 8.2	1 2.0	49 100.0
わからない	0 0.0	10 4.6	7 3.2	40 18.3	30 13.7	9 4.1	3 1.4	79 36.1	9 4.1	32 14.6	0 0.0	219 100.0
計	17 0.9	112 5.9	211 11.1	333 17.4	304 15.9	150 7.9	43 2.3	521 27.3	48 2.5	152 8.0	18 0.9	1,909 100.0

閣」の80.2%，「社会党と公明党と民社党の連立内閣」の78.2%，「公明党の単独内閣」の77.4%，「民社党の単独内閣」の76.9%，「社会党の単独内閣」の72.2%，「社会党と公明党と共産党の連立内閣」の60.4%，「社会党と共産党の連立内閣」44.3%，「共産党の単独内閣」の15.6%という順位がよみとれる。ここで，1位，2位，3位までは自民党を含む連立内閣，8位，9位は共産党を含む連立内閣，10位が共産党の単独内閣となっていること，1位から7位まででは「今のままの体制を希望する者」が「今の体制以外を希望する者」をはるかにこえているのに対して，8位ではその程度がかなり小さくなり，9位では「今のままの体制を希望する者」と「今の体制以外を希望する者」がほとんどつりあうまでになっており，10位では「今の体制以外を希望する者」が「今の体制を希望する者」をはるかにこえるにいたること，共産党の単独内閣をよしとする群についてさえ「今のままの体制を希望する者」の割合が1割強ほどあるので「体制観」が完全に分極化しているとはいえないこと，などは注目される。

第30表　内閣の型と体制の型

内閣の型＼体制の型	今のままの体制	今の体制以外	その他	計
社会党の単独内閣	57 72.2	12 15.2	10 12.7	79 100.0
自民党と社会党の連立内閣	178 80.2	21 9.5	23 10.4	222 100.0
共産党の単独内閣	5 15.6	23 71.9	4 12.5	32 100.0
社会党と共産党の連立内閣	78 44.3	72 40.9	26 14.8	176 100.0
民社党の単独内閣	10 76.9	2 15.4	1 7.7	13 100.0
自民党と民社党の連立内閣	69 92.0	3 4.0	3 4.0	75 100.0
公明党の単独内閣	24 77.4	4 12.9	3 9.7	31 100.0
社会党と公明党と民社党の連立内閣	68 78.2	8 9.2	11 12.6	87 100.0
自民党と民社党と公明党の連立内閣	35 87.5	0 0.0	5 12.5	40 100.0
社会党と公明党と共産党の連立内閣	61 60.4	25 24.8	15 14.9	101 100.0

(5)　最後に，「今のままの体制」を希望する者に対して「福祉国家」をのぞむかどうかをかさねて質問したが，その結果は，「強く望む」が67.7%（875人），「やや望む」が26.9%（347人），「あまり望まない」が2.9%（37人），「望まない」が0.8%（11人），「わからない」が1.7%（22人）となった。福祉国家を「強く望む」と「やや望む」を加えるならば，じつに，95%にまでたっし，人びとがいかに福祉国家を期待しているかがしられるのである。

おわりに

ここで，以上の分析の結果は，ごくおおまかにつぎのようにまとめられるであろう。

(1)　政党支持態度や政治的諸態度とデモグラフィック要因との相関は高いようである。今後，このような相関をより体系的に明らかにするためには，両者をつなぐ「媒介メカニズム」(A. Campbell et al., American Voter, 1969. p. 368) についての分析が重要な課題となるであろう。

(2)　政党支持態度と政治的諸態度との相関も高いようである。政党支持別にみるならば，「自民党への好感——非好感」，「田中内閣への支持——不支持」，「今の体制への志向——今の体制以外への志向」のいずれの軸においても，自民党と共産党は両極に対峙しており，この両者の中間にあって，民社党は自民党寄りに，公明党と社会党は共産党寄りにそれぞれ位置していることがしられた。このような結果をみるかぎりでは，回答者の「政治的概念形成の水準」(A. Campbell, op cit., chap. 10) はかなり高く，ここでは，政党支持態度に対する「政治的変数」の寄与は，「社会的変数」や「心理的変数」にくらべてもけっして小さいとはいえないように思われる。ただ，これが，部分的，表面的，可変的なものであるのかどうかについては，今後の綿密な分析をまたなければならない。

<付　記>

神戸市における政治意識調査は関西学院大学社会学部の丹羽春喜教授，中野秀一郎助教授との共同研究によるものであり，理論図式や調査項目の構成も共同討議によっておこなわれたものである。